

可児市学校規模適正化提言書（案）の パブリックコメントの結果について

（パブリックコメントの期間）

平成 24 年 4 月 20 日（金）～ 5 月 10 日（木）

（結果の公表場所）

市ホームページ <http://www.city.kani.lg.jp/>

教育総務課

市政情報コーナー（地域振興課内）

（問合せ先）

可児市学校規模適正化検討委員会事務局

可児市教育委員会事務局教育総務課総務係 担当：山口・石井

【住所】 〒509-0292 可児市広見一丁目 1 番地

【電話】 0574-62-1111（内線 2401・2402）

【パブリックコメントで提出された意見の内容と委員会の考え方について】

	意見	委員会の考え方
1	<p>・学区の見直しについて 春里地区（長洞について）勝野設備から光陽台への階段を使い、春里小より近い南帷子小へ校区を変えて子供達が夏へビが出る田んぼ道を通らなくてすむようにすべきだ。</p> <p>・西可児中と広陵中との統合について 広陵中では生徒が少なくなって部活などがなりたたなくなっている。また虹ヶ丘で若干の宅地や住宅の売り出しが進められているものの先行きは見通せない。10数年前から広陵中では陸上部などの廃部が起きていることを考えると西可児中へ統合するか蘇南中から土田地区の一部校区を移して学校を残すやり方どちらがいいのか市として検討すべきである。土田地区の一部を広陵中校区にした場合、今より部活は充実出来るものか話し合いをする必要がある。支援学級を除いて1学年2クラスではギリギリの先生しかいないため、先生の負担が大きい。</p> <p>また先生が病気、ケガで長く入院することになると子供達へのさしつかえが広がる。長坂地区をすべて広陵中校区にして学校を残すのも一つの方法ではあるものの、南帷子小学校卒業時に子供達がバラバラになることへの気配りを考えると慎重にこのことは行うべきだ。長坂については中学は西可児か広陵どちらかを選べるやり方を取り入れられな</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>学区の見直しについて、および2つの中学校の統合について、具体的なご意見をいただきました。</p> <p>学校規模適正化検討委員会では、可児市内のどの地域に暮らす児童生徒も同じようによりよい教育環境の中で効果的な教育が受けられるよう、可児市全体の小中学校の規模や配置についてその課題を出し合い、子どもたちにとって望ましい教育環境を整備するため検討を重ねてまいりました。</p> <p>この委員会での検討内容は、個々の学校・学区についての具体的な課題・方策ではありません。理想的な基準に照らして、学級数の多い学校、少ない学校の規模と配置を適正なものにするため、可児市の実情を踏まえつつ、今後どのような方策が考えられるのか検討を重ねたところです。</p> <p>ご意見にあります、学級数の少ない小規模校や大規模な学校の適正化に対する方策、方策を講ずるうえで配慮する点についての委員会としての提言は提言書の18、19ページにまとめてあります。</p> <p>今後は、理想とする学校規模の条件が著しく満たされていない学校については、統廃合や新設、増築、通学区域の再編などにより適正化を図るよう、この提言内容や今後の教育の動向、児童生徒数の推移、市の財政状況を踏まえたうえで、検討していただくよう教育委員会に提言いたします。</p>

いか考えてほしい。

広陵中については 10 数年前から部活の廃部が出ていたことを考えると市はもっと早く手を打つべきではなかったのではないか。(この時土田の一部を広陵中校区にしていたら蘇南中のマンモス化は今よりやわらいでいたはずだ) 広陵中をどうするかについては財政、経営にくわしい名城大学の教授に市も意見を伺って方向づけを考える必要もある。広陵中は、1 学年保護者は 3、4 クラス、西可児中は今の 4、5 クラスを保護者が望んでいることを考えると広陵中のあり方は大きな課題だ。

長坂 5 ~ 8 丁目 + 若葉台 5 ~ 7 丁目は学校選択制にしてほしい。(今までのなじみを守るため)

平成 10 年の生徒数 520 人が今 226 人と 6、7 割も減った。去年の春のデータ